

一般社団法人  
日本子育て支援協会  
講師  
岩本久実子氏



事前の配慮で大難は  
小難に、小難は無難に

『事前の対策によって大きな事故は小さな事故に、小さな事故は事故ゼロに』

これはパパママ・キッズ婚プランナー養成講座の冒頭で、“お子さま連れへの対応で何よりも大切なこと”と受講者へお伝えしている言葉です。

一般家庭では子どもが生まれ、成長して動き回るようになると、パパ・ママは室内で子どもがぶつかりやすい箇所にはカバーを付け、キッチン

## 子ども連れへの安心安全対策とは

アにはベビーゲートを設置。直径3.2cm以下の窒息につながる可能性のある異物は手の届かない場所へ移動するなど、自宅内の環境を子どもの危険がないよう徹底的に整備します。

たった数時間を過ごすだけとはいえ、結婚式場内でも考え方は同じです。

ましてやおめでたい席での事故は絶対にあってはなりません。

結婚式場での危険な場所について、パパ・ママへアンケートを実施したところ、階段や会場の段差、テーブルの角という意見が多く、中には“キャンドルを灯したオブジェを子どもが触ってやけどをしてみました。”という事例もありました。(ミキハウス子育て総研(株)「子連れでの結婚式参列に関するアンケート」より)

結婚式の雰囲気を盛り上げる装飾が子どもにとっては思わぬケガへとつながる場合もあるのです。

ここで、安全対策のためのチェック事項を3つご紹介します。

- ①子どもの手が届く150cmより低い位置に危険なものはありますか？
- ②子どもの顔や頭にかかる100cmより低い位置にテーブル等の角はありませんか？
- ③階段の手すり下部に30cm以上の隙間はありませんか？

とりわけ活発に動き回れるようになる1歳半～4歳頃の子どもは大人が予測をしない行動をするものです。手が届くものには指先1本でも触れようと、少しの隙間から転倒落下の危険もあります。

ぜひ1度「子どもにとって危険な場所はないか？」という目線で施設を一回りされてみてください。その際には現役で子育て中のパパ・ママスタッフと一緒に施設内チェックをされることがお勧めです。

そして施設内での危険な場所の発見後は速やかな対策をいかにとっていただけるかが重要です。ここでもパパ・ママスタッフの知恵と経験が活かされます。

事前の対策を行っていたのか、いなかったのかにより、

何か起きた時のケガのリスクに大きな差が出ます。徹底的なチェックと対策が何よりも大切です。

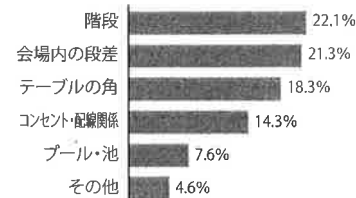
一方で、安全対策を行うことにより、来館

されたパパ・ママにとって子どもへの配慮がされていることが目に見えると、それが安心感や施設への信頼感につながり、口コミへと広がる可能性もあります。

お子さま連れウェルカムの第1歩としても、館内での安心安全対策をぜひご留意ください。

結びに子どもと接するときのポイントを。ひざまずいて子どもと視線を合わせニコッと微笑みだけで、子どもが苦手な方でもすぐに心が通い合いますよ！

Q. 式場で子どもが危険な場所がありましたか？(複数可)



Weekly ゴーゴーリサーチ(特別編)「子連れでの結婚式参列に関するアンケート」(2014年7月)より